会員の皆様へ:年 会費納入の情報:.郵便封筒の宛名下の数字参照。2026 は 2026 年度分納入済

しのばず自然観察会より 2026-3 2026.03.07

2026 年 3 月の活動 不忍池定点観察 3 月 15 日(日)

集 合:午前10時 不忍池 蓮池西南端
野外ステージ西側
(湯島天神下交差点寄り) 緑の小旗あり
今回は雨天中止
持 物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食)
解 散:午後 1 時頃、ボート池テラスの予定
参加費不要 非会員の参加歓迎

2月8日の定点観察会は降雪のため中止しました

上野公園は間もなく花見のシーズン

上野公園といえば花見、カンザクラ類は 1 月より花を付けましたが、東京のソメイヨシノの開花は3月16日と予想されています。上野の彰義隊墓所に小川潔が植えたソメイヨシノは樹齢がわかる数少ない個体で、2026年には満62歳になりました。ソメイヨシノは60年といわれますが、この木も太い幹は上部が枯れ、一方下枝はここ10年以上、人々が愛でる花を付けて撮影のスマホが集まってきます。

谷中霊園のソメイヨシノの古木

ソメイヨシノは側枝、胴吹き(不定芽)、根吹きが盛んで、これらをうまく育てれば個体を伐採撤去せずに個体の中で枝⇒幹の更新が期待できます。樹木は一般に、樹皮のすぐ内側に維管束(いかんそく:水や栄養の通路や生長する細胞群)が根から繋がっています。より内部の木部の多くの部分の細胞は死んでいますが、体を支えることに寄与しています(もっとも、物理的には内部が抜けた管構造がより強いということもあります)。不定芽由来の枝は、初めは幹の維管束とは繋がっていませんが、徐々に枝の維管束が生長していくようです。

サクラの古木の幹を見ると、何本かの太い大蛇のよう

な部分（太い枝の維管束に相当）が、らせん状に巻きながら幹を形成して根に連なっているのがわかることがあります（写真参照）。こうなれば、病気が広がっていない限り、朽ちた幹の部分が欠けても、新たな維管束が生きていて樹としては存続できます。

定点観察会の集合地前には3月5日現在、サクラの品種「陽光」らしい花がイチョウの木の上で花を開き始めました。これは、サクラのタネがイチョウの木の枝の枯れ落ちた跡の窪に落ちて、芽生え生長したものと見られます。また、上野公園には花期がソメイヨシノとずれる多数の品種のサクラや、ヤマザクラなどもあり、いわゆる花見シーズンを外して楽しむこともできます。

しのばず自然観察会の会計監査選出と会計処理について

会計監査の選出について、1月の例会（定点観察会）で相談した結果、坂部美枝子会員から引き受けてよいとの表明があり、次の例会で正式決定することになりました。2月の例会は雪のため開催できませんでしたので、3 月例会（定点観察会）へ持ち越しました。

なお昨年初夏の月例会で会員から指摘があった会計の簡素化については、2026年 1 月 1 日に、特別会計Ⅱ（「不忍池を愛する会」より受け継いだ上野公園対策基金）および研究費積立金（1980年代の会員からの上野公園研究への拠出金）については、残高を一般会計に組み入れたうえで廃止することにしました。特別会計 Ⅰ（次年度以降分の会費前納分）については、次年度以降分の会費を使い込まない枠内での収支がはっきりするよう、これまで通り「預り金」として残すことにします。

2026 年2月8日 雪の不忍池

観察会は中止と思いながらも、久々の雪景色を見に不忍池に出かけました。さすがに人影は普段の日曜日に比べれば少なく、ボートも休みでしたが、通行人、カメラを持った人、ジョギングする人などがいました。一方、普段、したまちミュージアム前の園路脇に集まる常連さんは一人もいませんでした。

刈り取られた枯蓮が積雪で白く水面に残る

降雪が最も激しかった時間は10時過ぎで、池は霧でも立ち込めたようで遠景は霞んでいましたが、11 時頃から小降りになり見通しもやや回復しました。水面に突き出した枯蓮などの上には、茶碗に山盛りのご飯を盛ったような綿帽子

しのばず自然観察会　事務局　〒110-0001 台東区谷中3－1－9 小川潔 方
1975年創立　電話 03－3828－8775　URL:http://sinobazu.extrem.ne.jp
郵便振替 00100－8－84609 しのばず自然観察会　年会費 2,000 円
E-mail.: uenoyanesen25atyahoo.co.jp（at を@に替えて送信してください）

＊＊2025 年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ＊＊

ができていました。カワウの島は静かでしたが、空からは巣へ帰るカワウもちらほら。咲き始めたものの積雪に震えるようなサクラの花も。

また、蓮刈りによってハスの枯れた根の一部や、池底に溜まっていたものも浮き上がっていました(夏に蓮池浮き橋に取り付けられた風鈴についていた協賛企業・団体のネーム入り短冊が目立ちました)。

なお、蓮刈りによって集められた「はちす」(ハスの花托)が、2個所のプラスチックの大きなコンテナ型の箱に入れられ、「ここはごみ入れではありません。はちすはご自由にお持ちください」との意味の掲示がされていました。「公園管理所も、なかなか粋なことをするじゃん!」との声も聞かれます。

水面に大小たくさんの雪の綿帽子

確認できた野鳥:キンクロハジロ、オナガガモ、カルガモ、ホシハジロ、オオバン、カイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメ、カワウ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、スズメ、ドバト、ムクドリ、ヒヨドリ

雪の不忍池 小川千恵子

2026.02.08 (ぼたん雪)

雨の時は中止。では雪の時は?決まりは無し。とりあえず雪の不忍池へ。

9:27

ボート池端のベンチの向こう側にムクドリ 13 羽。雪で覆われた地面をつつく。少し解けて水溜まりになったところで水を飲む。ハクセキレイが来て、仲間入り。私がベンチの背のそばに立っても逃げない。少しするとムクドリ達は去り、ハクセキレイが残って水を飲む。

浮き橋を見ると小さい雪だるまがある。あとで見ると木の枝で、目、口も手も作ってあった。水の中の筏の向こうをホシハジロ雄 2 羽が北へ進む。筏から頭が白く身体が白黒まだら模様に見える鳥が北へ進み出る。新しい珍鳥か?と慌てるが、良く見ると頭や身体に雪をのせているオナガガモ雄。筏で寝ている間に雪が降り、目覚めてそのまま泳ぎ出したということらしい。カルガモ 1 が筏のかたわらにいる。

池の低い柵の中の雪の上には南北に多数の足跡が続く。犬が歩いた跡のようだ。ムクドリ 1 羽が道端で、5cm位の長い何かをついばむ。良く見るとハンノキの雄花。

いつも会の活動最後に寄るテラスの後ろにあった、あの白い花の大島桜の木は根元から切られてしまった!人のいないベンチの向こうでオオバンが雪の中を歩きながら嘴で何度も下をつつく。雪の下の何を捜しているのか?

降りしきる雪の中、ボートはもちろん無し。ベンチにも座っている人は1人もいない。歩いている人も数えられる程度。ジョギングの人が、時々走って行く。積雪は 5 ㎝位かな。

集合地

あちこちウロウロする自転車女性。ヘッドライトもつけ、私の顔を見たり、何だか変。あとで潔にきくと、餌やり自転車、と。初めはそっとポケットから少量出してまくが、そのあとはおおっぴらにまいていった、と。

蓮池の枯蓮は岸から20m位刈られて、水面が出ている。刈られた蓮は野外音楽堂まではまだ水の中。野音北側に大きな青いプラスチック製の箱が置いてあり、「ゴミではありません。This is not trash can. 蓮の花托です。ご自由にお取り下さい。上野公園管理所」と書かれたものが貼ってある。何と粋な計らい！ 中に少し花托が残っているらしいが、その上にも雪が降り積もる。

浮き橋。浮き橋に囲まれた南側蓮池の蓮は全部刈られた。浮き橋の北側は刈られた蓮が水面に残っているところに、筏が通った跡らしい水面が川のように見える。浮き橋は積もった新雪の上を歩く感じで一歩進む毎に、ゴリ、ゴリと踏みしめる音がする。橋の歩く所の材質は何だろう？と初めて疑問に思った。浮き橋を出ようとすると、池に雪の丸いポンポンがあって水面を動くのに気づく。たぶん浮いている花托に雪が積もって丸くなった物が、風で水の上を動いているのだろう。水面を見ると、「上野観光連盟」「よし寿司」「焼肉太昌圓」「松村（株）」等と書かれた札が浮いている。ちょっと見ただけで浮き橋の内側に 26 枚、外側に 10 枚。夏にこの浮き橋にぶら下げられていた風鈴の風受け板の残がい。刈った蓮と共にきれいに片付けられることを願う。

したまちミュージアムの手前から、刈られた蓮が池と低い柵の間に山のように積み上げられている。これは弁天堂入口まで続く。したまちミュージアムそばの河津桜 2 本。雪が積もった枝先にチラホラ濃いピンク色の花が見える。花にも雪が積もる。カイツブリ 3 羽が鳴きながら潜ったり泳いだり。オオバンが 1 羽。

動物園弁天門入口。並んでいる人は 1 人もいない。ベビーカーを押して 1 人が入場していくのが見えた。

弁天堂入口手前に新しくできたトイレに入ってみる。入口に幾つもの大きな絵のピクトグラムが描かれているが、多くて入るのを迷ってしまう。入口の北側の壁にスクリーンがあって、芸大の何かの宣伝が映し出されている。何故こんな所にこんな物があるの？？？じっと見ていると男性トイレ入口を見続けているように見えるので、これからは見ないようにしよう。双眼鏡の眼をあてるレンズが雪で水滴だらけ。トイレでゆっくりレンズを拭く。

弁天堂入口。入って北側、一番手前の屋台を 3 人で組み立てている。初めて見た。南側はいつも通りで、横にテーブルもイスも置かれている。テーブルの上は、雪を手で払ったような跡もあり、イスはテーブルの下に入れられている。この屋台は常設しているらしい。北側は橋までは組み立て中の屋台一つだけであとは何も無い。橋手前動物園池寄りに白いしだれ梅が咲いている。橋を渡って北側の 3 軒の屋台はそのまま立っていて、作り場売り場になる所に白い布がかけられ、ロープで止めてある。こういう屋台姿も初めて見た。弁天堂の手洗場の東に紅いしだれ梅、西の池側に白いしだれ梅が咲き始めている。もちろん雪をかぶって。

藤棚。
柿に実は１個も残っていないが、ヒヨドリ２羽が、ヘタに残っている果肉をつついている。なんともいじらしい。
弁天堂を出て北側、動物園池端は車が１台も無い。久し振りに動物園方向が丸見え。カワウの島はフンでいつも白いが、雪が降っていると雪で白いのかと思ってしまう。カワウは雪の中で、点々と黒い姿が目立つ。数は少ない。動物園池西にある３本の落羽松の一番南の木の上、巣作り途中か？と思う固まりが４個。
池には、いつも押し合いへし合いしているコイの姿は全く見えず。皆、下に沈んでいるのかな？ボート場は入口のフェンスが降りている。
池の北を西へ行く。筏の植え込みの下に立ち、身体を丸くして眠っているコサギ １ 羽。キンクロハジロは今朝、数が少ないと思ったが、数えてみると 80 羽以上いる。ひっくり返したボートの上にはセグロカモメ２羽。ユリカモメはとても少ない。数えてみると、30 羽位。
池北の水面の中の筏の真中にコサギが身体を丸めて小さくなって立ち、その筏の上にユリカモメ8羽。キンクロ１、オナガガモ雄１、オオバン１がのっている。筏があって良かったネと声をかけたくなる。
ホシハジロ雄２羽。浮き橋に小さい雪ダルマ２個。3、4 才女の子とその両親らしい人達は、ベンチの上に雪をのせて、人が座っているように見える雪ダルマを製作中。つい声をかける。
11:20
切られてしまった大島桜について
潔によると、都の公園関係者から「あの大島桜は根が揺れていて、倒れる危険があったので最初から切るつもりであったが、電ノコが故障で、1月20日には全部切れなかった」と言われた、と。潔からも電ノコが治ったら、全部切られてしまうだろう、と言われた。
何故根がゆれているのか？原因は？その治療法は？根がゆれている木で、ゆれが治った木は無いのか？ゆれていたら切るしか無いのか？せめて、支えをして、倒れないようにして様子を見ることはできなかったのか？蕾が多数ついているから今年だけは、花を咲かせようとはならなかったのか？何故、蕾がいっぱいついている時に切らねばならないのか？
もしも自宅の庭に先代が植えたとか、何かの記念に植えた木があって家族が大切に育ててきた木の根がゆれていると気づいた時が、花芽をいっぱいつけているこの時期だったとしても、やはり切り倒すことをしただろうか？ふつう、色々手だてをするのではないだろうか？何年も前の担当の方達が植えて育ててきたオオシマザクラ、何か手だてはできなかったのか？
このオオシマザクラの切り株は、公園内で、以前切られたサクラのような幹の中にグズグズの粉のような物はなかった。まだ生命力のある切り株だった。
1月18日の観察記録にも書いたが、切った枝はどうしたのだろうか？あんなに蕾がついた枝は、ただただゴミとして焼かれてしまったのか？
「こういう事情で、たくさんの蕾のつくこの時期にオオシマザクラは切らざるを得ませんでした。せめてご家庭で、オオシマザクラの花の最後を楽しんでやって下さい」とでも書いて、枝を持ち帰ってもらうような粋な計らいはできなかったのか？

東京国立博物館の池の北東側に大きな立派な、誰もが歓声をあげて見惚れるみごとなオオシマザクラがある。不忍池にあったオオシマザクラも博物館のオオシマザクラくらい立派に大きく育つ可能性があったと思うと、守れなかったことはとてもとても残念。

弁天堂入口そばに植えられたキクモモとタイリョウザクラは枯れてしまった。抜いてゴミにする前に、原因究明をぜひしてほしい。次に役立てるために。

★先回の「しのばず自然観察会より」の訂正。

P3、下から４行目：2026. 01.16→2026. 01.18

P6、ネズミのトラップのところ：18 日ではなく 20 日

私たちの上野公園―しのばず自然観察会 50 年史に励ましの言葉や紹介が

12月15日に発刊した「私たちの上野公園―しのばず自然観察会50年史」を会員・資料交換団体・関係個人・機関に年末にお届けしましたが、いくつかお便りをいただきました。

元会員からは、「（裏表紙の）旗の字が自分のもので気恥ずかしいやら懐かしいやら・・・」、「都会に由緒ある公園があり、その自然を守ってきた人たちがいると思うと、感慨深い」と。療養中の元会員からは、「私の人生で一番、幸福な時でした」と。50年史中のある事項の引用元となった小川潔の同級生からは、「クラス会幹事メンバーに本の出版をお知らせするとともに、入院中の同級生には届けます」と。

小川潔の大学専門学科の同期生からは、「初めは上野公園にあまり関心は無かったのに、読み始めたら文章が読みやすく、最後まで読み通しました、自分がやっている緑地保全の活動と重なります」、「本物に出会えました、一緒に上野公園を歩いているようです。上野公園をもっと知りたくなりました」と。

造園学会の会長をつとめた先生からは、「不忍池地下利用への小川潔の壮絶かつ持続的な斗いを詳細に学ばせていただき、観察会50年史は、小川潔80年自分史であり、それは後進の心ある人々への大きな指針として永く読みつがれていく大著！であると確信します」 との礼状をいただきました。

また、「50年史と聞いて、驚きを禁じえません。着実にことを進めてこられた蓄積がこの本に濃縮しているのでしょう」、「記録はきっと役立つ時が来るのでしょう」、「ぶれない小川さんのもとに人が集まり、次の世代にもバトンをわたしていく、その大きな力がこの本にあります」、「史料的価値もすごいですね。 50年の継続の力を感じます」といった声も届きました。

赤塚公園のニリンソウ保護活動を引退した木村松夫さんは、ご自身が発行している「雑草通信」に、「本書は自然保護運動のまたとないテキスト」と高評価を載せてくださいました。日本野鳥の会東京の研究部ブログには、本書の目次を掲載していただきました。全国自然保護連合の機関誌には詳しい紹介がありました。また、市民活動サポートセンター・アンティ多摩からの依頼で、「市民活動のひろば」（2026年4月1日発行）に「しのばず自然観察会51年の歩み―上野公園の歴史とみどり・生きものと共に」と題した小川潔の原稿が載る予定です。